

ほろにが

平成30年8月17日
全国卸売酒販組合中央会

「酒を扱うということの意味」

中国支部長 濱岡 弘道

小学生の頃、休みになると母の里へ行くのが楽しみでした。

当時は、まだ食べ物も少なく、酒は大変貴重なものでしたが、父が祖父の為に酒を用意して私に持たせたものです。

落とさない様に大事に持って行くと、祖父が待っていて「よく来たよく来た」と喜んで迎え入れてくれました。

叔母が「おじいさん、今日は酒を抱いて寝るよ。」と言っていたのを今でも思い出します。私の事もさることながら酒を待っていたのかなと思ったものです。

私が社会人になって当社に入社する時、父に言われた言葉があります。

「酒は、担税物資であるという重要性もそうだが、場合によっては薬(善)にも毒(悪)にもなるものだから心して商売しなさい。社会を良くする為に酒が持つ特性に対して責任を持ちなさい。」と言われました。

今から5年前になりますが、組合創立60周年記念式典を行いました。その資料の中で、発起人の一人に父の名前が載っておりました。

父は、組合創立時の苦労や喜びをよく話してくれました。酒を扱うということの意味や社会における重要性を政府(国)と一緒にあって共有できたと大変嬉しそうでした。

酒が持つ本来の意味や重要性を鑑みず、全体として採算が取ればよいとか、宣伝効果があるから目玉商品にといった扱いをしている人は、酒を取り扱う資格が無いのではないかと思います。酒は他の商品とは全く異なるものです。

本年6月14日に中央会の総会がありました。この業界を一層健全なものにしよう、公正取引の推進とともに、組合活動についての独占禁止法等の順守に

関するガイドラインの制定が提起され、一部大手の組合参加に向けて大変意義深いものと思いました。

業界が一致協力して組合を盛り上げていければと、組合を立ち上げた時の苦労や喜びを嬉しそうに話していた父の顔が浮かびました。

102歳の母のことをいつも書きますが、母は今も晩酌を欠かしません。

猪口に清酒を1杯とビールを2口飲んで「食が進み、ご飯がおいしくなる。」と嬉しそうに話します。そして、「このような素晴らしい職業(酒造家から卸問屋まで)に従事させてくれた先祖に感謝しなければ」と言うのが口癖です。

組合あつての組合員です。卸組合の組合員が一致団結し、酒を扱うことに誇りと責任を持ち、酒の良さやその重要性、社会性を認識して公正な取引を推進し、明るい社会と平和に貢献したいものです。